

びわを加害する果樹カメムシ類の防除に関する新たな取組

～ドローンを用いた空中散布試験を若手びわ生産者と実施～

安房農業事務所改良普及課 令和3年5月26日発

びわは、安房地域を代表する果樹の1つであり、冷気が停滞しにくく、寒害を回避しやすい山の急傾斜地で主に栽培されています。しかし、急斜面では病害虫防除時の作業負担が大きく、特にカメムシ類による果実の吸汁被害は収量を著しく減少させるため、生産者からは省力的な防除方法が求められています。

そこで農業事務所では、若手生産者組織である房州枇杷研究会、農林総合研究センター暖地園芸研究所と連携し、令和3年5月12日に農業用ドローンによる空中散布を実施しました。散布作業は急斜面でも問題なく行われ、生産者からは「防除作業が困難な園を中心に導入したい。」など前向きな意見が出されました。一方、カメムシ類の発生は年次変動が大きいいため、複数年検討し、コストや防除効果を明らかにする必要があります。当事務所では産地と連携し、びわの安定生産に向けて引き続き活動していきます。



散布に用いた機体



山の頂上のびわ樹に散布する様子